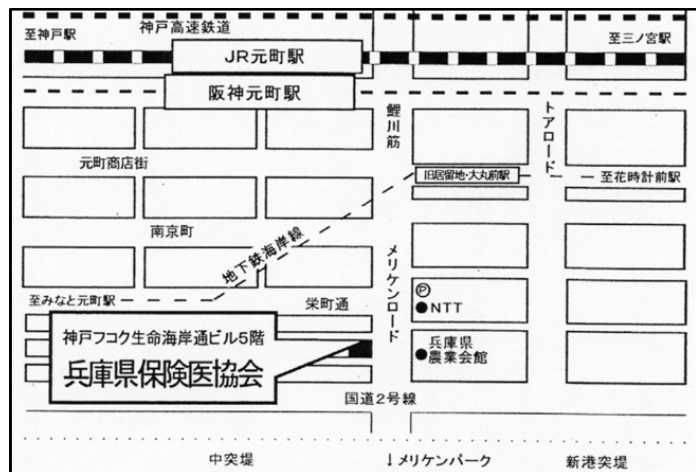


歯科インプラント治療のための骨造成の現状

日時 **2026年1月25日（日）14:00～17:00**

講師 滋賀医科大学医学部
歯科口腔外科学講座 教授 **高岡 一樹** 先生

会場 **兵庫県保険医協会会議室**
・神戸フコク生命海岸通ビル5階
・JR・阪神「元町」駅東口から南へ徒歩7分



⇒協会未入会の先生はこの機会にご入会の上ご参加ください（入会金なし:月会費：歯科開業医5,000円、同勤務医3,000円）

【Zoom視聴の申し込み】

下記のURLまたは二次元コードからお申し込みください。案内メールが送付されます。

<https://x.gd/UPCWR>



歯科インプラントを埋入するには、埋入部位の顎骨の骨量が重要であり、埋入後の長期的な安定性にも深く関与します。そのため、骨量が不足している場合には骨造成が必要となります。骨造成に用いられる移植材には、自家骨および人工骨があります。自家骨は、骨形成能・骨誘導能・骨伝導能のすべてに優れており、信頼性の高い材料とされていますが、ドナー部位への侵襲を考慮する必要があります。一方、人工骨はドナー部位への侵襲を回避できる利点があり、さまざまな種類の人工骨が開発され、インプラント治療における骨造成に広く応用されています。また、広範囲にわたる顎骨欠損に対しては、チタンメッシュプレートと腸骨海綿骨細片、あるいは血管柄付き遊離腭骨を用いた顎骨再建により、歯科インプラント治療が可能であり、広範囲顎骨支持型補綴治療として認知されつつあります。本講演では、歯科インプラント治療における骨造成の有用性と今後の課題について症例を提示し解説します。（高岡 記）

＊お問い合わせは

TEL：078-393-1809

E-MAIL：ysng@doc-net.or.jp

1月25日歯科定例研究会 参加申込書（返信FAX：078-393-1802）

地区〔 市区町 〕 医院名〔 〕

TEL〔 〕 FAX〔 〕

氏名〔 〕 職種〔 〕